「詳不詳」を表す形容詞述語文の文型と用法

朴　海　煥

【キーワード】 詳不詳　文型　文の構造　語の意味　助詞の機能

0．はじめに

本稿は今までの拙稿[※1]に続く現代日本語の形容詞述語文全般についての文型と用法研究の一部である。本研究の一次的な目的は今までの拙稿で考察してきたような各下位意味グループの形容詞述語文についての具体的な分析研究である。なお，本研究の次の段階の目的はこのような個別的で部分的な一つ一つの研究を形容詞述語文全体についての研究に拡大して体系化することである。

本稿では具体的に「知識，様子，詳細」などのような「詳不詳」の意味を表す形容詞述語文について文型論の観点から文の構造と語の意味との関係を分析考察したい。本稿でいう文型論とは述語を軸として結合する名詞句と助詞の三者間の結合の構造とその構造を決定する原因や背景である語の意味的な特徴との関係を文型の面から分析するという観点である。

本研究の目的と対象は「詳不詳」の意味を表す形容詞述語と文型の把握，各文型と名詞句及び述語形容詞の意味特徴・助詞の役割などとの関係の分析，「詳不詳」を表す形容詞述語文の主要文型の抽出と主要用法の把握及び文構造の特徴の把握などについて分析考察することである。

分析の順序に関しては上記の研究目的と対象に従い，

①「詳不詳」を表す形容詞述語の範囲の選定
②「詳不詳」を表す形容詞述語文のとる文型の抽出
③ 各文型についての分析考察
④「詳不詳」の形容詞述語文の主要文型と用法及び全体的な特徴

という順に作業を行いたい。

「詳不詳」の意味を表す形容詞述語文を含む筆者の一連の形容詞述語文の分析研究において，助詞に関しては「が，から，で，と，に，は，より，を」などを分析の対象にしている。格助詞ではない助詞も分析の対象に入れているのは名詞句の意味用法をできるかぎり幅広く把握するためである。[※2]

1.「詳不詳」を表す形容詞述語と対象文型

1．1.「詳不詳」の意味の下位分類

「詳不詳」の形容詞述語文はある対象に対する人間の知識の程度，対象そのものがはっきりしていない様子や不審な様子，説明や記述などの人間の知的行為の詳細さなどを表す表現を対象とする。本稿では「詳不詳」を表す形容詞述語文を分析するにあたって，その精度と合理性を高めるために「詳不詳」を表す形容詞述語を適切な範囲に下位分類することにする。下位の意味グループは今まで行われた主要な先行研究の意味分類※3を参考にし，文脈上の形容詞述語の意味を基準に分類した。文脈上の意味を基準にした理由は本義的な形容詞だけでなく転義的な形容詞の比喩的な用法も対象に入れることによってなるべく多くの形容詞述語の表現を網羅して把握するためである。このような過程を経て本稿では「詳不詳」の意味を表す形容詞述語を「知識，様子，詳細」の３種類に下位分類することにした。以下，本論ではこれらの各意味グループの単位で分析を進める。

1．2．分類の基準と対象形容詞

対象形容詞の選定においては各種の語彙調査※4及び用例の分析結果の使用頻度と基本性を参考にした。上記の「知識，様子，詳細」の３種類の各下位意味グループの分類の基準と対象形容詞は次のようである。

1．2．1.「知識」の形容詞述語

「知識」の形容詞述語はある対象に対する人間の知識の程度を表す表現である。この意味項目の対象形容詞としては「明るい，遅い，暗い，詳しい，強い，弱い」などが挙げられる。これらの形容詞からも分かるように「知識」を表す形容詞述語にはその属性を直接的に表す本義的な用法の語はない。この点は「知識」の形容詞述語文の文型の特徴，特に名詞句の意味や項目の数などの面で２項目文型をとると言う特徴と深い関わりがあると考えられる。詳しくは後述する。

1．2．2.「様子」の形容詞述語

「様子」の形容詞述語は人間のある対象の様子に対する判断である。具体的には対象そのものがはっきりしていない様子または不審な様子などを表す。対象形容詞には「怪しい，臭い」などがある。一方，「慌しい，忙しい」などのような仕事に関する人間の様子を表す形容詞もこの「様子」の意味グループと関連があるが，これらについては「繁忙」という別の意味項目で扱うことにしてここでは省略する。

1．2．3.「詳細」の形容詞述語

「詳細」の形容詞述語は人間の行う説明や記述などの内容の詳細さに対する判断を表すものである。対象形容詞としては「詳しい」が挙げられる。

1．3．各意味グループの対象文型

対象文型の抽出と選定については形容詞述語文の研究のために作成した基礎資料を使った。この基礎資料とは多様なジャンルの言語作品約200件から収集した約5,000文の実例を対象にして形容詞述語文における「名詞句，助詞，形容詞」の三者の結合の構造とその構造の背景にある語の意味特徴を細かく分析した実態調査※5である。

本稿では上記の調査の用例を整理した結果に基づき，次のような文型を対象にして分析を行いたい。

①知識：「N2は・が＋N1に＋形」
「N2は（が）＋N1は＋形」
「N1は・が＋形」
②様子：「N1は・が＋形」
「N2は（が）＋N1が＋形」
③詳細：「N2は・が＋N1に＋形」
「N2は（が）＋N1が＋形」
「N1は・が＋形」

もちろん，用例の文型を整理した結果として得られた文型の形態の数は上記の文型の種類よりはるかに多い。ただ，文型における助詞の機能，文型の使用頻度，文型の中での名詞句・助詞・述語形容詞の三者間の関連性，他の文型との関連性などを考慮に入れ，上記の文型を分析の対象にしたのである。

このような文型の選定にはより合理的かつ論理的な妥当性が確保できる基準が必要である。本稿のような部分的な意味の形容詞述語文の研究ではありうる多様な用法を把握するためになるべく選定の範囲を幅広くしようとした。今後の形容詞述語文全般についての総括研究の機会には文型の選定の基準についても再考して整理，提示するつもりである。

以下，前述した対象形容詞の3種類の意味グループと各文型の順に分析を行う。

2．「知識」の形容詞述語文の文型と意味用法

「知識」の形容詞述語文には項目の省略を除くと1項目表現は使われない。つまり，2項目専用の意味グループなのである。この意味グループの代表的な文型は「N2は・が＋N1に＋形」で，「N2は（が）＋N1は＋形」文型は「N2は・が＋N1に＋形」文型の一種の変形的な応用の用法と言える。

2．1．「N2 は・が＋N1 に＋形」

この文型は N1 項目が述語判断の基準的な対象の役割をする表現である。そのため，「主題提示の項目」と「基準的な対象の項目」という二つの名詞句の項目を必要とする。その結果，当然 2 項目表現として使われることになる。

(1) はずかしながら重助は，芝居にはとんと暗い。(骨よ 40)
(2) 少年は海軍のことには，わりにくわしかった。(若き 103)
(3) 先生は和紙に詳しい。(モロッコ 77)
(4) とにかく，昔から日本列島の住民は比較的，流行地名に弱かった。(山河 134)

この文型の N1 項目には知識に関する「詳不詳」判断の対象としての名詞句が来る。この対象の名詞句は述語判断の基準の役割をも持つ。この「基準性」は助詞「に」の役割から来た特性であると考えられる。N1 項目の名詞句の意味特徴については特別な制限はない。人間の知識にはその範囲に制限がないためにそれを表す名詞句の意味にも当然のごとく制限が置かれないことであろう。ただし，用例の検討の結果からすると「明るい」には具体名詞は使われない傾向がある。

N2 項目には「知識」などの持ち主を表す名詞句が来る。その持ち主としては擬人的な用法を除くと主に人間を表す意味のものが使われる。

この文型のように「知識」の形容詞述語文が 2 項目文型を中心に使われるのは「知識」の意味を表す形容詞の意味特徴とも関係があるように思われる。というのは，これらの形容詞述語は文構造における意味的な属性の支配力が弱いのでそれを補うための名詞句の項目を必要とすることと考えられる。

一方，このような 2 項目の文型は実際は 1 項目表現として使われることも多いが，それは次の例文のように知識の所有主を表す N2 項目が省略された場合である。

(5) 帳付もできるし，南蛮のことにも明るい。(黄金 201)
(6) 私よりはその手の情報に強い。(愛さ 50)

2．2．「N2 は（が）＋N1 は＋形」

「2．1．」の「N2 は・が＋N1 に＋形」文型の変形的な応用とも言えるこの文型も「知識」の形容詞述語文の構造の特徴の一つと言える。

(7) 私の学校は京都だったから，京都は詳しい。(女宴 79)
(7－1) 私の学校は京都だったから，私は京都は詳しい。

上記の例文（7）はN2項目の名詞句が省略された形で使われたものである。この文型のN2項目の名詞句を復元すると（7－1）のような例文になるはずである。この文型のN1項目の助詞「は」は本来「2．1.」の「N2は・が＋N1に＋形」文型の派生から来たものと言えよう。「N2は・が＋N1に＋形」文型のN1項目の助詞「に」は実際の言語表現では「には」や「については」などのような多様な形で使われることが多い。この「には」や「については」のうち「に」や「について」が落ちて助詞は「は」だけが残り，「N2は（が）＋N1は＋形」の文型になるわけである。そのため，この用法のN1項目の助詞「は」の項目は次の例文のようにすべて助詞「に」への復元が可能である。

（7－2）私の学校は京都だったから，私は京都には詳しい。
（7－3）私の学校は京都だったから，私は京都については詳しい。

3．「様子」の形容詞述語文の文型と意味用法

「様子」を表す形容詞述語文の文型は「知識，詳細」などのそれに比べて比較的に単純である。文型としては主に「N1は・が＋形」と「N2は（が）＋N1が＋形」の2種類が使われるが，項目の数などの面で「臭い」と「怪しい」が異なる特徴を見せるため，これらを分けて考察することにする。

3．1．「N1は・が＋形」

3．1．1．「臭い」

「様子」を表す形容詞述語の中でこの「臭い」は周辺的な状況を追加する名詞句の用法を除くと1項目専用の用法を見せる。

（8）目撃者の証言が臭い。(IPAL499)
（9）それからついでのようにぼくのまだ決まらない職のことに触れて心配してみせたのだが，その辺がどうもくさい。(遠の303)

上記の例文からも分かるように「臭い」は「様子」の状況に対する全面的な否定の判断を表す。そのため，1項目以外の名詞句の補充を必要としないことと考えられる。この文型の名詞句は「様子」の「詳不詳」判断の具体的な対象としての性格を持つ。名詞句の意味特徴には特別に範囲の制限はないが，傾向としては「人間そのもの」や「人間の行動」など主に「人間の活動」にかかわる意味のものが多いと言える。

3．1．2．「怪しい」

「怪しい」の1項目文型には1項目中心の用法と2項目文型の縮約や省略の用法がある。

まず，1項目中心の用法には次のような表現がある。

(10) 彼女と課長はどうもあやしいね。(用法34)

この表現の名詞句の意味特徴としては「臭い」と同様に「人間そのもの」や「人間の行動」など主に「人間の活動」にかかわる意味のものが多く使われる。

しかし，このような1項目中心の表現は実際の言語生活で1項目表現として現れるだけで論理的には次のような2項目の構造を持つ。

(10－1) 彼女と課長はどうもやることが（関係が）あやしいね。

次は「怪しい」の2項目表現の二つの項目の名詞句の縮約，または項目の省略による結果としての1項目表現である。例文(11)は縮約，(12)は省略の例である。

上記したような理由でこの2種類の1項目文型を「怪しい」の主要文型に入れるのは難しいと考えられる。

(11) 彼の英語は相当にあやしい。(用法34)
(12)「そう言うところが怪しい！」(紅花110)

この表現の一つの名詞句は当然2項目への変換や復元が可能である。名詞句の意味特徴などについては「3. 2.」の2項目表現で考察する。

3．2．「N2は（が）＋N1が＋形」

「3. 1. 2.」でも述べたようにこの文型は「怪しい」の「様子」判断の最も基本的な文型である。

(13) この町はどうも様子があやしい。(IPAL135)

この文型のN1項目には「様子」の「詳不詳」判断の対象としての性格を表す名詞句が来る。名詞句の意味特徴としては「関係，様子，やること」などのように「人間の活動そのもの」を具体的に表すものが多く使われる。

N2項目には「様子」判断の対象の所在や持ち主などの性格を持つ名詞句が来る。名詞句の意味特徴としては「人間そのもの」や「人間の活動そのもの」または「人間の活動の場」を表すものが多く使われる。

4.「詳細」の形容詞述語文の文型と意味用法

「詳細」の形容詞述語文は「詳不詳」の形容詞述語文の中で最も多様な用法を見せる。この意味グループの代表的な文型は「知識」と「様子」の形容詞述語文に現れるような2項目表現である。そのため，文型の形の上では「知識」と「様子」の形容詞述語文の両者を統括した用法のように見えるが，名詞句の性格や意味特徴などの面でかなり異なる特徴を持っている。

4．1.「N2は＋N1に＋形」

「詳細」を表す形容詞述語文の用例の中で圧倒的に多く見られる表現はこの文型である。

(14) このへんの経緯は弟の小説『楡家のひとびと』にくわしい。(モタさ 22)
(15) この間の事情は，彼の『化学・倫理・政治』(岩波書店) にくわしい。(ビタミ 40)
(16) その成果は，和歌山県新宮市の近海カツオ漁船益栄丸の「暗号解書」に詳しい。(カツオ 161)

この文型は「詳細」判断の対象の名詞句とその対象の所在を表す名詞句の項目の二つが使われる2項目表現である。二つの名詞句の項目のうち，判断対象の所在を表す項目が助詞「に」の形で使われ，「N2は＋N1に＋形」のような構造を表すのである。

この文型のN1項目には「詳細」の「詳不詳」判断の対象の所在の性格を持つ名詞句が来る。名詞句の意味特徴に関しては主に人間の知的活動の結果物として「絵，図，論文，本」のような出版物などが使われることが多いが，口頭説明などの直接的な知的行為も使われる。いずれにせよ情報伝達のための媒介体の意味を表す名詞句が多い。このN1項目の助詞「に」の名詞句の項目は文型の形の上では「2. 1.」の「N2は・が＋N1に＋形」文型と同じもののその性格や意味特徴の面では異なる特徴を持つ。つまり，この両者は「2. 1.」の「知識」の場合は述語判断の基準という名詞句の性格と特別な制限のないという名詞句の意味特徴，「4. 1.」の「詳細」の場合は述語判断の対象の所在という名詞句の性格と人間の知的活動の結果物としての情報伝達のための媒介体という名詞句の意味特徴のような相違点を持つのである。

この文型のN2項目には「詳細」判断の具体的な対象の性格の名詞句が来る。名詞句の意味特徴には特別な制限はないが，主に人間活動にかかわるある「ことがら」を表す抽象的な意味の名詞句が多く使われる。

一方，この文型の助詞「に」の項目は文の意味をそれほど替えずに助詞「が」と入れ替えが可能な場合が多い。

(17) ビタミンCとガンとの関係は，『ガンは予防できる』(大平出版)(が)くわしい。(ビタミ 180，括弧内筆者)

(18) ついでながら，この航路については，ジェイムス・ボンドの「ゴールド・フィンガ」(が)詳しい。(退屈 185，括弧内筆者)

このような特徴は「詳細」判断の対象の所在というN1項目の名詞句の性格にその理由があるように考えられる。つまり，助詞「に」と助詞「が」が使われた2種類の文型の文はその結果的な意味こそそれほど変らないが，「文の意図の方向」という点でニュアンスの違いが生じるのである。詳しく言えば，助詞「に」の場合は「詳細」判断の対象の所在として場所を，助詞「が」は「詳細」判断の対象の所在そのものを強調して指し示すことになる。この点は「4. 2.」で扱う総主構文との接点とも言える特徴である。

上記のような特徴から「詳細」の意味を表すこの「N2は＋N1に＋形」文型は形態の上では「2. 1.」の「知識」の意味を表す「N2は＋N1に＋形」文型と同様であるが，名詞句の諸特徴の面では根本的に異なる用法であることが分かる。「知識」と「詳細」の特徴の相違点をまとめると次のようである。

その1，文の表す意味の面で「知識」は「人間の知識そのもの」，「詳細」は「人間の行為の結果物」という意味特徴に主眼点が置かれている。

その2，N1項目に使われる助詞は「知識」と「詳細」の両方「に」である。しかし，この助詞「に」の項目の名詞句の性格と意味特徴は完全に異なる。名詞句の性格として「知識」は述語判断の基準としての対象，「詳細」は述語判断の対象の所在という特徴を持つ。また，名詞句の意味特徴に関しては，「知識」は特別な制限はなく「詳細」は人間の知的活動の結果物としての情報伝達のための媒介体という特徴を見せる。

その3，入れ替えの可能な他の助詞として「知識」は「は」，「詳細」は「が」が挙げられる。

4. 2.「N2は（が）＋N1が＋形」

この文型は「4. 1.」の「N2は＋N1に＋形」文型とは違い，「詳細」判断の対象の所在ではなく「詳細」判断の対象の内容そのものに重点が置かれた表現である。いわゆる典型的な総主構文の文型である。

(19) この解説書は説明が詳しい。(IPAL537)

(20) この辞書は記述が詳しい。(IPAL537)

この文型のN1項目には「詳不詳」判断の具体的な対象の内容を表す性格の名詞句が来る。名詞句の意味特徴としては「話し，説明，記述，辞書，図」などの

ような「人間の意志表現」や「情報伝達のための媒介物」などの人間の知的活動の結果の内容を表す意味の名詞句が多い。N2 項目には「詳細」の「詳不詳」判断の対象の所在や持ち主などの性格を持つ名詞句が来る。主に「人間そのもの」や「人間の活動の結果物そのもの」を表すものが多い。

一方，この文型は次のように N1，2 項目の名詞句そのものの入れ替えが可能な場合が多い。

(19－1) それについての説明はこの解説書が詳しい。
(20－1) それについての記述はこの辞書が詳しい。

このようなプロセスを経るとこの文型は「4. 1.」の「N2 は＋N1 に＋形」文型の N1 項目の助詞「に」が助詞「が」に入れ替えられた「N2 は（が）＋N1 が＋形」文型との接点につながることになる。

4．3．「N1 は・が＋形」

この文型は「4. 2.」の文型の二つの名詞句の項目が縮約したりまたはその一つの項目が省略されて使われたものである。

(21) さすが道兼の話はくわしい。（この世 268）

名詞句の意味特徴は項目の省略を除くと「詳細」判断の具体的な対象の内容と所在を表す名詞句が同時に来る。

5．おわりに

以上，「詳不詳」を表す形容詞述語文を「知識，様子，詳細」の 3 種類に下位分類し，それぞれの形容詞述語の意味グループの文型について名詞句・助詞・述語の三者間の関係を中心に分析考察してきた。その結果に基づき，「詳不詳」を表す形容詞述語文の主要な文型と用法を次のように提示する。

「N2 は（が）＋N1 が＋形」：「様子，詳細」に著しい「詳不詳」判断の総括的用法
「N1 は・が＋形」：「様子」に著しい本義の「詳不詳」判断，「詳不詳」判断の総括的用法
「N2 は・が＋N1 に＋形」：基準性の「知識」判断，「詳細」判断の所在
「N2 は（が）＋N1 は＋形」：基準性の「知識」判断の応用

上記の内容からも分かるように「詳不詳」を表す形容詞述語文は「N1 は・が＋形」と「N2 は（が）＋N1 が＋形」文型を中心的な軸に助詞「に」の項目の持つ

特徴が追加されて表現が多様化している。これは形容詞述語文の文型のもっとも基本的な特徴でもあるが，「詳不詳」の形容詞述語文では特に助詞「に」が使われる文型が中心的な位置を占めている。

「詳不詳」を表す形容詞述語文のその他の特徴としては，「様子」の「臭い」の1項目表現の用法，「知識」や「詳細」などのような2項目表現中心の用法，「知識」と「詳細」の形容詞述語文がそれぞれ対照的な特徴を持つことと特に助詞「に」の特徴の違いが著しいこと，各意味グループごとに一般的に使われる文型の特徴が比較的明確なこと，助詞同士の入れ替えの特徴などが挙げられる。

今回の分析では他の意味の形容詞述語との接点については充分な分析と考察が行われていないところもある。また，序頭でも述べたように文型の選定及び対象語彙や対象助詞の取り扱いにおいても吟味が足りないところや基準についての再検討が必要なところがある。このような点は他の意味の形容詞述語文についての分析や助詞の観点からの分析，また，形容詞述語文全体の観点からの分析，などの機会に見直して補うことにする。

最後に今後の作業としては，他の形容詞述語文の分析と連繋した研究，形容詞述語文全般についての文型と用法の研究，文型の観点からみた形容詞述語文の体系の確立，などを考えている。また，今後の研究の発展的な応用としては，文型による形容詞の意味分類と結合価の記述，形容詞用法辞典の作成，他品詞述語文との比較などが考えられる。

※1　詳しくは次のようである

(1995)「「関係」を表す形容詞述語文の構造」(『早稲田日本語研究』3　早稲田大学国語学会)

(1997)「「感情」を表す形容詞述語文の構造」(『早稲田日本語研究』5　早稲田大学国語学会)

(1998)「形容詞「ない」述語文の文型と用法」(『日本学報』第41集　韓国日本学会)

(1999)「「量」を表す形容詞述語文の文型と用法」(『日本文化学報』第6集　韓国日本文化学会)

(2000.8)「「視覚」を表す形容詞述語文の文型と用法」(『日本文化学報』第9集　韓国日本文化学会)

(2000.9)「「時」を表す形容詞述語文の文型と用法」(『日本語学研究』第2集　韓国日本語学会)

(2001)「「身上」を表す形容詞述語文の文型と用法」(『日語日文学研究』第39集　韓国日語日文学会，印刷中)

※2　本稿の記述におけるいくつかの基準を示す。

①本稿でいう名詞句とは，述語形容詞と結合する「体言＋助詞」のうち，体言の部分を意味する。単独名詞ではなく句や節の場合もある。

②本稿で扱う形容詞は言い切りの形がイである形容詞のみを対象とする。

③名詞句の項目の順番に関しては，述語形容詞に近い項目から「N名1項目，N2項目，N3項目」のように表記する。一方，名詞句の項目の数に関しては「1項目，2項目，3項目」のように表記する。

④一つの項目に助詞「は」と「が」が併用される場合は次のように表記する。N1項目以外の助詞はN1項目に「が」が使われない時は「は・が」，使われる時は「は（が）」と表記する。

⑤収集用例にない言語特徴の場合，辞書類の記述を参考にしたところもある。

※3　形容詞の意味の下位分類には主に『分類語彙表』(1964，国立国語研究所，秀英出版)，情報処理振興事業協会技術センター（1990）などの資料を参考にした。

※4　分析対象の形容詞の語彙選定には主に『現代雑誌九十種の用語用字』(1962，国立国語研究所，国研報告21，秀英出版)，『電子計算機による新聞の語彙調査』(1971，国立国語研究所，国研報告38，秀英出版)，『日本語教育のための基本語彙調査』(1984，国立国語研究所，国研報告78，秀英出版）などの資料を参考にした。

※5　この資料を使った現代日本語の形容詞述語文一般に関する分析報告としては「現代日本語の形容詞述語文の構造」(朴海煥，早稲田大学大学院修士論文（1994))」がある。

【引用用例出典】

(愛さ)『愛される理由』二谷友理恵（1964女）朝日新聞社1990（1990『週間朝日』連載）
(黄金)『黄金の日日』城山三郎（1927男）新潮文庫1982（1978新潮社）
(女宴)『女の宴』黒岩重吾（1924男）角川文庫1981
(カツオ)『カツオ一本釣り』若林良和（1959男）中公新書1991
(この世)『この世をば（上)』永井路子（1925女）新潮文庫1986（1982，83毎日新聞連載）
(山河)『山河慕情』小林高寿（1926男）教育報道社1984
(退屈)『ヨーロッパ退屈日記』伊丹十三（1933男）文春文庫1976
(遠の)『永遠の1／2』佐藤正午（1955男）集英社文庫1986（1984集英社）
(ビタミ)『ビタミンC健康法』三石巌（1901男）講談社1977
(紅花)『紅花』井上靖（1907男）文春文庫1980
(骨よ)『骨よ笑え』有明夏夫（1936男）文春文庫1987（1984『文芸春秋』)
(モタさ)『モタさんの汽車の旅・世界の街世界の人』斉藤茂太（1916男）PHP研究所1976
(モロッコ)『モロッコ革の本』栃折久美子（1928女）筑摩書房1975
(若き)『若き日の詩人たちの肖像（上)』堀田善衛（1918男）集英社文庫1977
(IPAL) 情報処理振興事業協会技術センター1990『計算機用日本語基本形容詞辞書IPAL（Basic Adjectives)』情報処理振興事業協会
(用法) 飛田良文・浅田秀子1991『現代形容詞用法辞典』東京堂出版

【主要参考文献】

言語学研究会編（1983)『日本語文法・連語論（資料編)』むぎ書房
仁田義雄（1980)『語彙論的統語論』明治書院

西尾寅弥（1972）『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
森山卓郎（1988）『日本語動詞述語文の研究』明治書院
森田良行（1994）『動詞の意味論的文法研究』明治書院
――――（1996）『意味分析の方法－理論と実践－』ひつじ書房
池原悟　他編（1997）『日本語語彙大系』岩波書店
石綿敏雄・荻野孝野（1983）「日本語用言の結合価」（『朝倉日本語新講座 3 文法と意味 I』（付録 2）朝倉書店）
情報処理振興事業協会技術センター（1990）『計算機用日本語基本形容詞辞書 IPAL (Basic Adjectives)』情報処理振興事業協会